

2018年度戸田育英財団研究助成 研究報告書 要旨

『大学生による自転車事故およびヒヤリ・ハット発生箇所の傾向と危険要因の解明』

東海大学工学部 土木工学科

鈴木美緒 

自転車は免許が不要で安価に手に入れられる、非常に手軽な交通手段であり、幅広い年齢層に利用されているが、若年層と高齢者を中心に事故件数の割合が大きいことが問題視されている。また、若年層は、自転車事故に遭いそうになる（ヒヤリハット）比率が他の年齢層より多いことも示されているが、特に10代～20代と年齢構成別統計でも統合した分析がなされず、ライフスタイルが大きく変わる大学生の事故の実態は明らかとなっていない。

そこで本研究では、大学生の自転車利用をより安全にするため、東海大学湘南キャンパス構内およびその近隣エリアでの学生の自転車乗用中の事故およびヒヤリハット事例を収集し、その場所・時間帯・交通状況を把握することで、大学生に共通する危険事象を明らかにすることを目的とする。

まず、大学生が起こす自転車事故の情報収集をメディアのアーカイブ、大学、病院での調査を通して試みたが、病院で比較的詳細な事故被害情報を得られたものの、メディアでも重大事故が1年1件程度取り上げられるに過ぎず、大学では個人情報保護の観点から事故の発生を公開できないことがわかり、大学生が自転車事故を身近に感じる機会は非常に少ないことがわかった。

次に、大学生の自転車利用実態を知るべく、東海大学構内及び近隣での自転車利用の観測調査を実施した。その結果、全体の約28.6%が違反運転をしていることや、構内の坂道で非常に高い速度で自転車が走行していることがわかり、大学生が日常的に危険な自転車運転をしていることが明らかとなった。

そこで、自身の違反行為や事故経験、ヒヤリハット経験を取得するべく、Webと紙媒体で東海大学湘南キャンパス在学生への調査を実施した。その結果、自損事故の報告はあったがヒヤリハットを認識している回答はゼロで、それ以前にアンケート調査の回答率が3%程度と一般的な調査と比較して非常に低いこと、アンケート票をその場に廃棄することなども併せて考慮すると、自転車事故についての関心が非常に低いと言わざるを得ない。さらに、神奈川県内の大学に通学する学生が関わる自転車事故またはヒヤリハットも調査したところ、こちらもサンプル数は多くなかったが、出会い頭事故の他、横断時衝突や信号無視が目立ち、周囲の状況を確認する人が少ない可能性が示唆されることがわかった。

大学生は、速度が高いだけでなくイヤホンを着用したりスマホを操作したりしながら自転車運転している人が非常に多く、道路交通法が適用されない大学構内から外に出る際にそのような行動を抑えることもしないことから、講義開始時間のあたりに絞るなどして大学構内での交通ルール適用やその注意喚起を行ない、安全な運転を身に付けさせる必要があるといえる。

※本研究結果は、第60回土木計画学研究発表会（2019年11月）に発表予定である。